

会議結果報告書

会議の名称	令和3年度第1回函館市子ども・子育て会議（書面会議）
日時・場所	令和3年11月18日（木） ※事前に書類を送付の上，質問・意見等を取りまとめ
出席委員 19名／19名中	池田委員，石坂委員，石田委員，岡出委員，小野田委員，数又委員，川村委員，木村（一）委員，木村（雅）委員，佐々木委員，高野委員，高橋委員，高村委員，玉利委員，西村委員，畑委員，本田委員，劉委員，吉増委員

議 事	概 要
(1) 会長および副会長の選出について	<p>【概要】</p> <p>事務局より以下の資料について報告を行った。</p> <p>資料3 会長および副会長の選出について</p> <p>【決議状況】</p> <p>全会一致により，池田委員が会長に，玉利委員が副会長に決定した。</p>
(2) 第2期函館市子ども・子育て支援事業計画に基づく施策の状況および施策目標について	<p>【概要】</p> <p>事務局より以下の資料について報告を行った。</p> <p>資料4 第2期函館市子ども・子育て支援事業計画（計画期間：令和2年度～令和6年度）に基づく施策の状況および施策目標について</p> <p>【委員からの質問・意見等】</p> <p>別紙のとおり</p>
(3) 教育・保育および地域子ども・子育て支援事業の提供体制について	<p>【概要】</p> <p>事務局より以下の資料について報告を行った。</p> <p>資料5 教育・保育および地域子ども・子育て支援事業の提供体制について</p> <p>【委員からの質問・意見等】</p> <p>別紙のとおり</p>
(4) その他	<p>【概要】</p> <p>その他質問・意見等について</p> <p>【委員からの質問・意見等】</p> <p>別紙のとおり</p>

令和4年(2022年)2月7日

令和3年度第1回 函館市子ども・子育て会議(書面会議)における 質問・意見等に対する市の考え方

目次

資料4への質問・意見等に対する市の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

資料5への質問・意見等に対する市の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

その他質問・意見等に対する市の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3,4

1. 資料4への質問・意見等に対する市の考え方

No.	事業名等	意見者	質問・意見等	市の考え方	担当部局
1	P1 夜間の多世代型子育てサロンの開設	木村（一）委員 (函館市社会福祉協議会)	質問 市民協働モデル事業の内容について説明してほしい。	夜間や休日に地域の親子が気軽に参加し、参加者同士またはスタッフと多世代での交流を図ることのできる場を提供し、また、育児に不安を抱える親からの相談に応じるなど、子育てへの負担感の軽減等を図り、子育てを応援することを目的とした事業となっております。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった回もありますが、これまでに市内町会館等の会場で計5回開催しており、今後につきましては、市内の感染状況を見ながら判断していくこととしております。	子どもサービス課
2	P14 周産期母子医療センター（道事業）との連携	小野田委員 (函館市PTA連合会)	質問 令和2年度の実績部分で、「母子支援地域連絡会（年5回）を通じて連携を図る。」と記載されていますが、「※新型コロナウイルス感染症対策のため7回中止」とも掲載されております。7回実施で7回目が中止なのか7回とも中止なのか、どのような意味か教えてください。	「母子支援地域連絡会」は、原則月1回、年12回開催しておりますが、令和2年度はこのうち5回を開催し、7回を中止しました。	母子保健課
3	P23 道路のバリアフリー化等の整備	高橋委員 (連合北海道函館地区連合会)	意見 令和2年度の実績状況から見て令和3年度の実績見込みがかなり減少していますが、今後の整備を含めて計画的に行うべきと考えます。これと合わせて、視覚障がい者用等の音声による横断歩道（押しボタン式）の整備等も検討すべきと考えます。	令和2年度（2020年度）実績については、都市計画道路の開通があったことから、例年に比べ設置規模が増加したものであり、今後の整備にあたっては、関係機関から意見を伺いながら、施設の新設および更新について計画的に実施してまいりたいと考えております。 なお、信号機は、北海道函館方面公安委員会が所管していることから、ご意見については、所轄の警察署にお伝えいたします。	道路建設課 交通安全課

2. 資料5への質問・意見等に対する市の考え方

No.	事業名等	意見者	質問・意見等	市の考え方	担当部局
1	P16 多様な事業者の参入促進・能力活用事業	木村（一）委員 （函館市社会福祉協議会）	質問 内容について説明してほしい。	<p>国の補助事業である多様な事業者の参入促進・能力活用事業は、住民のニーズに沿った多様な教育・保育の提供を進めるために、多様な事業者の新規参入を支援することや、私立認定こども園における特別な支援が必要な子どもの受入体制を構築することなどを目的とし、「新規参入施設等への巡回支援」、「認定こども園の特别支援教育・保育」等に要する費用を事業者へ補助するものとなっております。</p> <p>このうち本市では、この事業を活用し、特別な支援が必要な子どもを受け入れるための職員配置に必要な費用を補助する事業をおこなっており、国の事業では対象とならない認定区分の子どもや施設を対象とし、受け入れ人数の要件も緩和するなど事業を拡大し、函館市特定教育・保育施設療育支援事業として実施しております。なお、資料は、国の事業の対象となる子どもの数のみを掲載したものとなっております。</p>	子どもサービス課

3. その他質問・意見等に対する市の考え方

No.	意見者	質問・意見等	市の考え方	担当部局
1	数又委員 (函館市民生児童委員連 合会)	意見 子どもの減少に対して、函館市要保護児童対策地域協議会での個別ケース検討会議が増加している印象があります。会議に上がるのは重大ケースと捉えれば、もっと数が多いと思われます。子育てを難しいと思っている親、子育てができない親に対する学習機会が必要かと思えます。 健診や予防接種、相談に来ている親たちは、たとえ若くてもなんとかなりそうですが、来ない親たちに対する継続的なケアが必要かと思っています。民生委員や主任児童委員も地域の一員として手助になればと思い活動しています。 今後も情報の交流により、地域の子どものことをお知らせりたいと思います。コロナ禍により、保育園や認定こども園、小学校、中学校、児童館との接点が全くなくなってしまい、とても不安に思っている委員もいます。	本市では、令和4年度(2022年度)に保護者や支援を要する子どもとその家庭等に対応するための「子ども家庭総合支援拠点」を設置することとしており、これにより職員体制の強化と専門性の確保が図られ、より適切な対応や支援が可能になるものと考えております。今後については、虐待の未然防止や早期発見の取り組みも必要であることから、子育てを難しいと思っている親、子育てができない親に対する支援策を検討してまいります。 また、母子保健課で実施している乳幼児健康診査未受診者訪問事業で、未受診世帯の養育環境の把握に努めているほか、民生委員や主任児童委員には、次世代育成課が要対協の調整機関として気になる家庭の見守りや情報提供などをお願いしているところであり、今後も、子どもとその家庭の見守りを、関係機関との連携により実施したいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。	次世代育成課
2	高野委員 (函館市ファミリー・サ ポートセンター)	意見 ファミリー・サポート・センターの提供会員の不足が全国的に問題となっています。函館市も不足気味です。幼稚園教諭、保育士、教員等の退職者に声をかけることができたらと思っています。	ファミリー・サポート・センターの提供会員の募集については、現在は市政はこたで等で周知を行っておりますが、今後は人材確保のため、ご提案いただいた方法も含め、周知を図ってまいります。	子どもサービス課
3	川村委員 (函館市私立幼稚園 協会)	意見 親の教育やモラル等の貧困がその子たちや次やその次の世代に連鎖されないような対策・施策を講じる必要を感じます。 また、子どもたちのよりよい口腔環境・衛生を推進すべく、歯科医師会とも連携を図り、保護者と子どもたちへの啓蒙をする必要も感じます。	家庭や保護者のあり方は、心身の成長や人格形成など、子どもの育ちに大きな影響を与えるとともに、子どもにとって家庭は育ちの基盤となる居場所となりますが、核家族化や地域の関わりの希薄化などにより、子育てを困難に感じる保護者が増えている状況にあります。 本市では、乳幼児健診等の母子保健事業を通して、不適切な養育環境等、子どもの成長に悪影響を及ぼしかねない状況を把握した際には、関係部署と連携しながら、子どもの健全育成に向け、継続的に支援を行っているところです。 また、函館歯科医師会と連携し、妊産婦を対象に歯や口腔ケアに関する講話を行っているほか、市内の幼稚園や保育園等に歯科医師を派遣し、保護者や施設職員に子どもの口腔ケアや歯磨きのやり方の指導等を行うことで子どもたちのより良い口腔環境・衛生を推進していますので、事業の周知に努めてまいります。 今後におきましても、すべての子どもと家庭への支援を行う観点から、子ども・子育て家庭に関する施策を総合的かつ計画的に推進してまいりたいと考えております。	子ども企画課 母子保健課 健康増進課

No.	意見者	質問・意見等		市の考え方	担当部局
4	本田委員 (函館大学)	質問	「ヤングケアラー」について、函館市内の実態や調査結果があれば教えてください。また、来年度以降の事業計画で新たに計画している支援策、対応などありますでしょうか。	本市では、「ヤングケアラー」に関する実態調査は実施しておりませんが、北海道が実施した札幌市を除く道内の実態調査におきましては、「世話をしている家族がいる」と回答したのは、公立中学2年生で3.9%、公立高校2年生全日制で3.0%・定時制で4.5%となっております。 また、ヤングケアラーである児童自身がそのことに気付いていない、児童に関わる大人がヤングケアラーの事を理解していないなど、認知度の低さが問題であることから、来年度からポスター等による啓発を実施するほか、児童と関わりが深い函館市要保護児童対策地域協議会の関係機関におきましては、ヤングケアラーの理解を深め、適切な対応をするために、情報共有や連携に一層努めてまいりたいと考えております。	次世代育成課
5	佐々木委員 (公募)	意見	保育に携わる者としては、年々「子育て」自体に深く関心を持っている親が減ってきていると強く感じます。親の年齢は関係なく「自分の時間を作りたい」と思う親が多くなり、我が子との密な関わりが少なくなることで、愛着がしっかりと形成されないまま成長していく状況を多く目の当たりにしています。 よって、妊娠期～乳児期～幼児期にいかにより子育てに興味・関心を持たせることが大切かと思うため、まずは妊婦健診、乳幼児健診での親とのコミュニケーションを大事にするべきだと考えます。具体的には、産婦人科側から子育てに関する情報提供を増やす、保健師・保健所側からの積極的な関わりが必要だと考えております。特に乳幼児健診の際は、子育てについて悩み始める親が多くいると思うので、実際の子育てサロンの様子を写真や動画で紹介したり、子どもと一緒に参加できるイベント等をわかりやすく知らせるなど、様々な予想される悩みに応じた的確な内容を相手に響きやすい形で提供していくことが大事だと思います（今の親は、手紙や書類をしっかりと見ようとしなないことが多いと感じるため、動画や口頭で伝えることがベストだと考えます。）。まずは、今の親・子どもの現状などを少しでも把握することが大事だと考えます。	本市では、妊娠届出時のマザーズ・サポート・ステーションでの相談対応をはじめ、両親学級、産後ケア、こんにちは赤ちゃん事業、乳幼児健診等、妊娠期から子育て期にわたり、保健師等が親との関わりを持ち、子育て等の悩みに寄り添いながら、支援の充実を図っているところであります。 また、子育てサロンでは、令和3年度（2021年度）、例年行っている市内子育てサロン合同行事を新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインで実施し、その際作成した全子育てサロンの紹介動画を11月6日のイベント終了後、子どもサービス課窓口にて流しております。なお、乳幼児健診の会場においても同じ動画をご紹介できるよう、現在準備を進めているところであり、今後わかりやすさを重視した情報提供を心がけてまいりたいと考えております。	母子保健課 子どもサービス課